

2 学年英語科学習指導案

授 業 者 中 川 恵
英語指導助手 Joseph.S.Maruckeck

- 1 日 時 平成16年10月5日(火) 第5校時
- 2 学級名 2年7組 (男子20名、女子18名、計38名)
- 3 主 題 Unit 5 A Park or a Parking Area ?
- 4 主題について

(1) 単元について

本単元では、文法事項として従属接続詞である if, that, when, because を扱う。いずれも初出であるため、if節、that節、when節、because節を用いた文の形、意味、用法を理解したうえで、場面や相手、目的に応じて適切に表現できるようになることを基本ととらえる。ある事故をきっかけに「公園を維持するか、駐輪場にするか」という地域での議論に対し、賛成か、反対か、その理由を、従属接続詞を用いた文で可能な範囲で言えるようにすることをねらいとした題材である。

中学校段階で扱う if節は、単なる条件を示す open condition で、直説法のいろいろな時制で用いることができる。また、心的行為動詞 think, hope, know などが that節を従えるケースを取り上げ、that そのものは省略が可能で、これらの従属接続詞を含む文に関しては、日常の多くの場面で実際に使用できるよう、聞くこと、話すことに重点を置いた指導を心がけたい。あわせて、時間を表す副詞節を導く従属接続詞 when、理由をあらわす従属接続詞 because に関しては、書かれたものについて正しく読み取ることにも挑戦させたい。従属接続詞 = 難しい、といった感覚に陥らせないように配慮しながら働きかけたい。

(2) 生徒の実態

生徒は、これまで学習してきた文法事項を授業のウォームアップの活動、まとめの活動の中で繰り返し使用してきている。自分自身のことに対する簡単な英語の質問に既習の表現を用いて答えるゲーム、また前時に学習した表現を用いた伝言ゲームなどに積極的に取り組む生徒が多い。しかし、テストなどでは主語と動詞の結びつきが理解できていないなど、初歩的ミスの目立つ生徒もみられるため、従属接続詞を含んだ表現に欠かせない、文の概念といった基本事項の定着は十分と言えない。今後練習を積み重ねながら、弱点克服を目指し、英語で話してみたい、分かるようになりたいという意欲をさらに高めていきたい。

(3) 指導の構想

この単元では、初出の文法事項を取り扱うため、英語科における問題解決的な学習の手立てを十分に意識したアプローチを、各パートを通して行いたい。具体的には、ウォームアップの段階から、ねらいとなる文法事項の導入を意識した言語活動を取り入れ、学習課題の焦点化を図る。一見、難しそうな従属接続詞であるが、普段の対話のなかで自然にかつ多用されており、不可欠な存在であることが導入の段階から課題追求にかけて認識されるよう口頭練習に重点を置くべきであると考え。また、覚えた表現が以後の授業の中で、教師の指示や質問、生徒側の受け答えのなかで生かせるような場面を増やし、覚えていてよかった、という安心感や自信をもたせたい。

5 単元の目標

(1) コミュニケーションへの関心・意欲・態度

ウォームアップでの会話活動や、友達同士のペアワークに意欲的に取り組んでいる。

(2) 表現の能力

if 節, that 節, when 節, because 節を用いた簡単な英文で、話したり書いたりできる。

(3) 理解の能力

if, that, when, because などの従属接続詞を用いた対話や教師の指示の内容を正しく聞き取ることができる。また、それらを用いた簡単な意見文を読んで要点を把握できる。

(4) 言語や文化についての知識・理解

if, that, when, because などの従属接続詞を用いた文の形、意味、用法を理解している。

6 指導計画

(1) if 節を用いた文の形、意味、用法を理解し表現することができる。

... 2 時間

(本時 1 / 2)

(2) that 節 (目的) を用いた文の形、意味、用法を理解し、それを用いて簡単な対話ができる。

... 2 時間

(3) when 節を用いた文の形、意味、用法を理解し、表現できる。新聞記事を読んで内容を理解し、それを参考にして 5 W 1 H の明確な、簡単な記事を書くことができる。

... 2 時間

(4) because 節を用いた文の形、意味、用法を理解し、表現できる。投書の意見を読んで内容を理解し、それを参考にして簡単に自分の意見を述べることができる。

... 2 時間

(5) 既習事項のまとめ

... 1 時間

7 本時について

(1) 本時の目標

ア ALT や JTE が働きかける場面と友達同士の練習に積極的に参加している。

(関心・意欲・態度)

イ 相手の好みに応じて、if を用いた文で勧めることができる。

(表現)

ウ if を用いた文の形、意味、用法を理解している。

(言語や文化についての知識・理解)

(2) 研究主題にかかわる本時の構想

・課題の焦点化

導入のウォームアップで用いた表現が、生徒に興味をもたせるとともに、新出の表現につながるように設定した。ALT と JTE の会話を聞きながら課題の焦点化が図られるようにアプローチしたい。

・課題解決の過程の工夫

ALT と協力して口頭練習を十分に行わせたい。最終的にはグループごとに協力して、実際に if 節を用いた対話の発表をさせ、今後も本時で覚えた表現を使おうという意欲をもたせるようにする。

	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度		表現の能力		理解の能力		言語や文化についての知識・理解	
評価規準	言語活動に積極的に取り組んでいる。さまざまな工夫をすることで、コミュニケーションを続けようとしている。		初歩的な英語を用いて、自分の考えや気持ちなどを正しく表現することができる。 初歩的な英語を用いて、場面や相手、あるいは目的に応じて適切に表現することができる。		初歩的な英語の情報を正しく理解することができる。 初歩的な英語を場面や相手、あるいは目的に応じて適切に理解することができる。		言語や言語の運用についての基本的な知識を身に付けている。 初歩的な英語の学習において取り扱われた文化について理解している。	
技能	評価基準	評価	評価基準	評価	評価基準	評価	評価基準	評価
聞くこと	日頃の出来事に照らし合わせてニュース番組などに自ら関心を持ちながら英文を聞き取ろうとする。	A		A	ニュース英語の大切な部分などを正しく聞き取ることができる。	A	学習や生活経験と照らし合わせてニュース番組の仕方などを理解している。	A
	ニュース番組などに関心を持ちながら英文を聞き取ろうとする。	B		B	ニュース英語の大切な部分などをほぼ正しく聞き取ることができる。	B	ニュース番組の基本的なことなどを理解している。	B
		C		C		C		C
話すこと	生徒の実態に即してさそう、ほめる表現などを有効に使いコミュニケーションを続けようとする。	A	自分たちの様子がよくわかるようにif節やthat節を正しく使い運勢や考えなどについて話すことができる。	A		A	if節やthat節の運用について正しく理解して英語を話している。	A
	さそう、ほめる表現などを使いコミュニケーションを続けようとする。	B	if節やthat節をほぼ正しく使い運勢や考えなどについて話すことができる。	B		B	if節やthat節の運用についてほぼ正しく理解して英語を話している。	B
		C		C		C		C
読むこと	身の回りを参考に英字新聞の記事や英語劇などに自ら関心を持ちながら英文を読み取ろうとする。	A	英字新聞や英語劇にかかわる英文の大切な部分などを自分の言葉として正しく音読することができる。	A	英字新聞や英語劇にかかわる英語の大切な部分などを正しく読み取ることができる。	A	英字新聞や英語劇にかかわる文化的な内容などを正しく理解している。	A
	英字新聞の記事や英語劇などに関心を持ちながら英文を読み取ろうとする。	B	英字新聞や英語劇にかかわる英文の大切な部分などをほぼ正しく音読することができる。	B	英字新聞や英語劇にかかわる英語の大切な部分などをほぼ正しく読み取ることができる。	B	英字新聞や英語劇にかかわる文化的な内容などをほぼ正しく理解している。	B
		C		C		C		C
書くこと	辞書を引くなど自ら取り組みながら5W1Hに注意するなど英字新聞を書こうとする。	A	自分の考えがよくわかるようにwhen節やbecause節を正しく使い英字新聞などを書くことができる。	A		A	when節やbecause節の運用について正しく理解して英語を書いている。	A
	5W1Hに注意するなど英字新聞を書こうとする。	B	when節やbecause節をほぼ正しく使い英字新聞などを書くことができる。	B		B	when節やbecause節の運用についてほぼ正しく理解して英語を書いている。	B
		C		C		C		C

9 本時の評価規準と具体的評価規準

	評価規準（観点）	Aの状況例	Bの状況例	Cへの手立て
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォームアップのQ and Aに意欲的に参加している。（関心意欲） ・教師同士の会話を集中して聞き、内容を把握できる。（理解） ・if節を用いた文の形、意味、用法を理解している。（知識・理解） 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習表現がよく定着していて自信をもって問答できる。 ・対話の内容をほとんど理解し日本語で概要を言うことができる。 ・基本文の形、意味、用法を理解しほぼ正確な文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を思い出し、問答ができる。 ・対話を聞いておおよその概要を聞き取ることができる。 ・基本文の形、意味、用法を理解し文をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つまづいている生徒の側に立ち言い方を教える。 ・教師からのヒントなどをもとに概要をとらえさせる。 ・つまづいている語句に説明を加える。
話すこと	<ul style="list-style-type: none"> ・何が食べたいのか友達との問答で表現しようとする。（関心意欲） ・if節を用いた文を理解し、絵をもとにした口頭練習に意欲的に取り組む。（知識・理解、表現） ・相手の食べ物の好みに応じてifを用いた文で勧めてみる。（関心意欲、表現） 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習表現がよく定着していて自信をもって表現できる。 ・if節を用いた文を理解でき、絵をもとにして文を言える。 ・ALTとifを用いた英文で対話している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を思い出し、表現できる。 ・if節を用いた文を理解でき絵や語句をもとにして文を言える。 ・ALTとifを用いた英文で対話している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つまづいている生徒の側に立ち言い方を教える。 ・つまづいている英文は全員で確認する。 ・友達やJTEが支援して対話している。